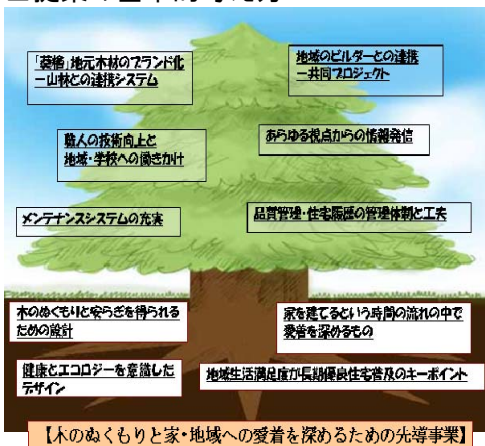


提案名	「葵檜の家」(矢作川流域材での家造り) 先導事業	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	株式会社 小幡建設	種別	システム提案
構造	木造住宅(在来軸組)	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方



小幡建設では、長期優良住宅の普及と地域材活性化のため地域との連携、異業種間の交流など、長期的に地域社会全体を考えた提案をします。地域材で作られた温もりのある木の家への愛着が山林への誇りを生み、次世代に受け継がれる住まいと満足度の高い地域社会を作り、これが環境保全や町づくりへと広がっていくために、長期優良住宅である矢作川流域材「葵檜の家」を造るための先導的な取り組みと、普及定着するための取り組みです。

地域に開かれた活動意義の明確化。

地域材で快適な家をつくり、手入れをして暮らす。地元の環境を意識し、家造りを通して近隣や住宅関連者との関係を深める。知る、学ぶ、知らせるという輪を通じて生活のクオリティが高まり、そのための共通する意識と活動が継続し生活満足度が高まる。このように次世代に受け継がれ長期に渡る優良な住宅が普及し定着することを明確に打ち出しています。

■提案内容

I 【長期優良住宅を普及するための先導的取り組み】

1、「葵檜」地元木材のブランド化—山林との連携システム

矢作川流域材は、非常に良質であり、歴史にも築城などで登場する伝統ある地域の財産です。しかし、現在の材木の市場、流通では上手に活用されていないのが現状です。そこで豊田森林組合と連携して、地元材の一部を「葵檜」というブランドとし、あいち認証材、性能表示、品質管理などを明確にしています。「葵檜」への愛着と誇りは地域環境への意識向上に大変役立つものです。



「葵檜」の構造材

2、地域のビルダーとの連携—共同プロジェクト

地域の山林との連携に意識の高い団体との共同プロジェクトを推進しています。「森林伐採体験ツアー」「製材工場見学ツアー」「プレカット工場見学ツアー」など、地域材活性化と環境保全について学び、ご家族で楽しく参加できるイベントを随時開催しています。



森林伐採体験ツアー

3、職人の技術向上と地域・学校への働きかけ

地元の技術の高い大工、または関連者に広く呼びかけ、定期的に勉強会を開催しています。また、地域の小中学校では、特別授業や体験学習を行っています。



職場体験授業

4、あらゆる視点からの情報発信

木の家造りをテーマに連続講座を開催するほか、住まいに関する各種ゼミを各地で開催しています。マイホームの計画のない方にも参加を呼びかけ、地域材を使った木の家について、地域環境活動への参加、近隣まちづくりへの参加へと地域全体を考えた活動で、意識が高まることを期待しています。

5、メンテナンスシステムの充実

NPO法人矢作川流域材で家を造る会では「ハッピースタッフ」制度を採用し、常時地域を回り、相談や提案を受付ける人材を活用しています。家を建てた後もお付き合いを深め、その後の住まいに関する項目をフィードバックすることで新たなノウハウを蓄積し、新しい提案につなげています。「経年住宅見学会」なども地域の方の協力を得て開催し、木の家の耐久性や経年材の魅力、暮らしのアドバイスなどが、好評を博しています。



当社リフォームキャラクタ

6、品質管理・住宅履歴の管理体制と工夫

リフォーム、新築、メンテナンスなどすべての情報を安全にシステム化して管理しています（ISO9001取得）。住民の視線で対応できるような、分かりやすい項目と関連性の紐付で、システムと品質の向上につなげています。また、瑕疵保証の上でも、安全な処置をとって別途保管しています。

II【木のぬくもりと家・地域への愛着を深めるための先導事業】

1、木のぬくもりと安らぎを得られるための設計。

「葵檜」を構造部に、松平杉など地域材を内装の随所に使って、木のぬくもりと香り楽しめるよう設計しています。さらに土壁や珪藻土などを提案。焼杉や三河瓦を使用した外観の落ち着きを意識し、魅力ある外装とまちづくりまでも意識した提案をしています。

ライフステージに適合できる設計上の工夫は、あえてプレカット工法を採用し、可変性の高さを目指しています。これは長期に渡って住まい手の生活スタイルに沿うことでもあり、バリアフリーを前提に、介護リフォームや二、三世帯住宅にも適合可能です。このことで愛着ある住宅を手放すことなく、次の世代に受け継がれる居心地のよく飽きのこない長期住宅になると考えています。

2、家を建てるという時間の流れの中で愛着を深めるもの。

愛着とは、家を建てる前から培われるものと考えます。地鎮祭での各職人立会いによるセレモニーで施主としての自覚と責任を知り、上棟式の餅投げは近隣とのつながりを得られる喜びがあります。引き渡し式ではスタッフや職人と共に喜ぶご様子や、後の住まい方などインタビューして紹介するなど、家族・職人・地域住民がそれぞれに関わり親密になることで地域生活の満足度が向上すると考えています。また、大黒柱を復活させ、上棟式にご家族の手で埋め込まれた孫子へのメッセージ、土壁に残す家族の手形など、それぞれのシーンで記憶や思い出を大切にしています。最後に行う地域伝統を活かした「トイレDEうどん」も好評です。

3、健康とエコロジーを意識したデザイン。

構造部に地域材を使用するとともに、若い世代のライフスタイルにも適した工夫をしています。瓦などは地域製品を採用、エコの視点からも効果が発揮されています。軒の出を広く取り伝統の知恵を活かしながらも和洋問わない、住まい手の感性を表現する設計を心がけています。

エクステリアの面では、庭木を配し外からの視線を遮りながら、防犯上も安全である開放的なアプローチに工夫をしています。将来的なバリアフリーを駐車場からも確保できる設計をしています。公的補助対象でもある緑のまちづくりを実践するために有効な生垣や雨水貯水システムなど住まい方も提案できる設計です。

また、防犯住宅として開発され評価された「命を守るサッシ」は安心して窓を開放できることから風通しがよく、エコ性能も優れています。さらに徘徊など介護を必要とする家族がいる場合も安全面に優れているため、心配や不安を軽減します。物理的な健康安全にとどまらず、心の安らぎを得られる健康住宅です。

■提案者からのコメント

地域生活満足度が長期優良住宅普及のキーポイント。

家族が意識して木の家を建て愛着を持って生活する。近隣、地域との関わりを深めることで、地域社会へ有意義なメッセージを発信することができます。長期に渡り安全で快適な生活ができる家とは何か。それはどのように造られ、守られているのか。そのためには何ができるのか。まちづくりや環境、住民のつながりを大切に、共同意識を高めることで、生活満足度の連続的な向上となり長期優良住宅として完成するものと考えます。活動をさらに充実させていくことで、長期優良住宅が普及し、定着することを目標にしています。



上棟式餅投げ



構造見学会



道路からのバリアフリー



命を守るサッシ



雨水貯水システム